

# スペイン広報55



## ベレン・ロペス フラメンコ界の新星

コラル・デ・ラ・モレリア (47年の歴史を持つフラメンコの殿堂ともいわれるマドリードのタブラオ)で16歳の素晴らしいダンサーが踊っている、と聞き早速見に行った。

ベレン・ロペス、3歳から踊り始め、5歳の時カルメン・アマヤを師匠会にて始めて観客の前で踊る。それを見た巨匠アントニオ・エル・バイラリンに見出され、この道を選んだと言う。7歳の時に、クレモナ青少年舞踊コンクール (イタリヤ) にて優勝。最近ではフランコ・ゼフィレリ監督の映画「カラス・フォーエバー」、同監督のオペラ「イル・トラバトーレ」、「カルメン」に第一舞踊手として出演と、16歳の若さで驚かすほどの才能の持ち主だ。コラル・デ・ラ・モレリアでのショーの出演前にインタビューさせてもらった。

圖まで伸ばした美しい黒髪をなびかせ、笑顔で迎えてくれた。コルド

バ出身の母、セビージャ出身の父との間に生まれた、5人兄弟の末っ子でタラゴナ生まれ、4年前にマドリードに移るまではバルセロナで勉強してきたという。バルセロナでは先生も少なく、クルシージョがあれば駆けつけてレッスンを受た。13歳よりマドリード王立舞踊学校で学び、優秀な成績で卒業。数々の優れた舞踊家の師事を受けたが、大きく影響を受けたアーティストとは聞くと、ラ・タチ、マヌエル・レイジェス、カルメラ・グレコ、ハビエル・ラ・トーレ、カンポリオ等の名を挙げた。

これまで劇場での仕事が多かった彼女に、劇場で踊るとタブラオで踊ることの違いを聞いてみた。「タブラオは劇場と違って、観客は飲んだり食べたりおしゃべりをしているけど、そんなお客さんを自分の方に向かせないといけない、そういう意味で劇場とは違った楽しさがある。」

あなたにとってフラメンコって何と聞くと、「私はフラメンコだけでなく、スペイン舞踊の踊り手でもあるわ。でもフラメンコには特別な愛情を感じている。フラメンコは私の人生そのものだし、現実の生活から逃避する場所でもあるわ。」と語った。今後の抱負を聞くと、映画でもシアターでも、あらゆる可能性に挑戦していきたいと言えた。

落ち着いて涼とした態度でプロとしての風格が感じられると共に、気取るところが無く、質問に対し目を輝かせて思いを語ってくれる彼女に好感を覚えた。期待に胸を膨らませてショーの時間を待った。

車のベストとバンタロンで舞台に花れたベレン。華やかな体に秘めた情熱、力強さ、その鋭い射るような視線は観客の目を引きつけて離さない。アレグリアスを男振りで踊った。洗練された技術、若さにあふれた動き、軽やかに速早く、しかし力強く思うままにリズムを刻み足。でもフラメンコは地に向かって踊るものだ。彼女の動き、バソの一つ一つに確実さ、重みがある。次はカステネットを使っているシグリージャ、その音色の軽やかさ、体の動きのしなやかさ、表現に若い女性のみずみずしい色っぽさと共に気品が感じられる。

パーソナリティーが無いフラメンコはどんなに技術を尽くしても面白くない。同時にその人の人間性があからさまに見えてくる。速い無い、熱心とした、ひとむきな彼女の芸に対する姿勢、フラメンコに注ぐ愛情、情熱がひしひしと見ている者に伝わってきた。久しぶり心がかすかとする踊りを見せてもらった。ショーの控室を訪ね、「素晴らしいかったわ。」と言うと、「今日はあまりうまく踊れなかった。」と残念そうに言った。謙虚で常に最善を尽くそうとしている。将来が楽しみなダンサーだ。今の真摯な姿勢を変えないで、大きくはばたいて欲しいと思う。